



## 映像プロデューサー **鴻池和彦**さん

映画館があった下関駅西口の大和町で、映画を見ながら育った鴻池さん。東京で11年間映画製作に携わった後に帰郷。映画を撮る一方、生まれ育った場所で念願の映画館をオープンしました。その想いとは。

### 映画が身近に 映画でまちに灯りを



▲この郵便局が映画館へ(写真右。鴻池さん)

下関駅西口に10月、小さな映画館「CINEMAPOST」が誕生。その名の通り、この映画館はかつて郵便局でした。支配人の鴻池和彦さんは、高校までこの地で育ちました。「昭和24年、下関漁港の要請で私の祖父に白羽の矢が立つて郵便局ができたんです。子どもの頃は、人の流れが下関駅西口に非常に集中していて、3館の映画館やデパートもありました。映画が身近で、小学生の頃から東映まんがまつりや、アニメ、特撮などの映画を見に行っていました」

鴻池さんは東京の大学に進学。下関での映画の原体験があり、卒業後は映画の道へ。円谷プロダクションを皮切りに、映像制作に携わります。そして映画製作者として携わっていた頃、父親から郵便局を継いでほしいと言われます。「ハードな状況が続いていて、下関に帰るのも、ありかなと思いました」

魚港口の映画館  
シネマポスト



CINEMAPOST

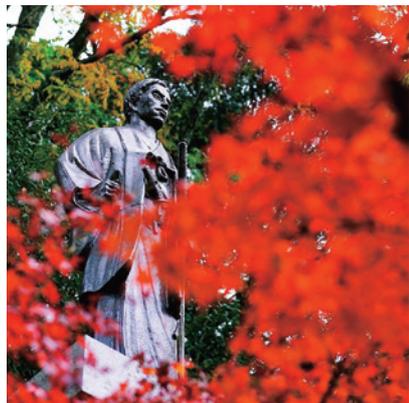
### 郵便局を映画館に

鴻池さんは、郵便局長と自主映画作りをこなしていましたが、郵便局がエリア配置の見直し対象となり、廃局されることになりました。そこで、映像制作会社設立へと舵を切ります。

「自分の考えたことが人に届けられる仕事は、生きがい

## Linked Instagram インスタグラム

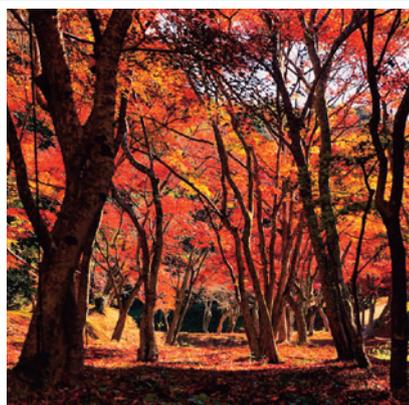
市報×インスタグラム連動企画  
フォロワーの皆さんが投稿した下関  
の魅力が伝わる写真をご紹介します



♡ Q ▼ @junjun\_tioさん



♡ Q ▼ @saru0112さん



♡ Q ▼ @hebotaroudesuさん

Autumn Leaves, Toyougan



▲鴻池さんが厳選したこだわりの映画(公開予定作品)  
毎月第1・3週に、1日4回上映。詳細はシネマポストHPから。  
上映後は、鴻池さんによる映画の解説もあります。



▶プロモーション映像を監督する鴻池さん  
「会社で映画を作っていた時、上司から『物作りは0から1を生み出す尊い仕事で、これを経験するとやめられない』と言われた言葉が、すごく染みついています」



◀全国移住ナビ下関PR動画  
「ここに、いる 下関」  
鴻池さんが郵便局長をしながら、旧知の俳優さんやスタッフを集めて制作。  
鴻池さんの下関愛が詰まっています。  
下関でも、映像事業ができるかもしれないと手応えを感じた作品。



に直結しますよね。企業理念の2本柱は『作る』と『伝える』。私の場合は映画です。自分がこれだと思ったものをみんなに共感してもらえるのは映画人の夢でもあります。しかし、映画館を立ち上げるにはいろいろな問題がありました。そんなとき、ある人が背中を押してくれました。『ここに映画館があることが重要なんです。いろんなことは二の次で、まずは映画館を作りましょう』と」

まっています。「どんなお客さまが来られるか、いつも楽しみです。ここに来れば、面白い時間が過ぎて居心地良いとお客さまに感じていただきたい。そして、人が集い、語り合い、つながりが広がってほしいと思います。ここが皆さんの心のオアシスや、コミュニティになるように、最大限のおもてなしでお客さまをお迎えたいと思っています。そして下関駅西口に人が集まるきっかけになればと思います」  
歳月を経て、再び下関駅西口にもった映画館の灯り。ここから新しい物語が生まれそうです。

## Editor's note 編集後記

◆引退した日新丸の船体には「日新丸 東京」と書かれていました。新母船の関鯨丸にはなんと「関鯨丸 下関」と。すごくないですか？ 宮村◆家族の郷土愛を育もうと奮闘中です。アンテナを高くして鯨生肉を購入。下関市民の特権。世界規模で考えてもレアじゃないですか？ 西村◆シネマポストの椅子はとても個性的です。中でも、郵便局の受付カウンターだった上に置かれた座椅子は斬新！ ぜひ座ってみてください。廣野